

保育おおさか

平成20年9月1日 第397号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
(大阪府保育協議会)

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

子育て支援など21年度から廃止・再構築へ

—大阪府が平成20年度本格予算を発表—

今年7月の臨時府議会で平成20年度予算が可決され、本格予算が発表されました。周知の通り、さる4月11日に「大阪府財政再建プログラム試案」(PT試案)が公表されたことに伴い、保育部会はこのPT試案に対し要望活動を行ってまいりました(本紙6月号掲載)。また6月5日には「財政再建」、「政策創造」、「府庁改革」を3つの柱とする『「大阪維新」プログラム(案)』が発表されました。本年度本格予算の概要と見直しの考え方、予算執行の考え方は別表の通りです。

事業名	PT案(単位:千円)				本格予算(単位:千円)	
	H20当初 (通年ベース)	H20削減 見込額	H21削減 見込額	見直し方向性・ 考え方	H20本格 予算額	査定コメント 予算執行の考え方
子育て支援 保育士事業	464,000	3,093	464,000	府の財政状況に 鑑み廃止(H21) H20・10%縮減	433,066	平成21年度より廃止、再構築 市町村が地域の実情を踏まえた制度設計を行える よう、類似の国庫補助制度も活用し、再構築。 @1,600千円 270ヶ所 (H19実績 230ヶ所)
産休等代替 職員費補助金	83,806	5,587	83,806	府の財政状況に 鑑み廃止(H21) H20・10%縮減	78,219	継続(実績を踏まえ、予算計上額を精査) 従来どおり(単価等変更なし)
施設経営安定 化推進事業	863,703	172,740	345,527	府の財政状況に 鑑み廃止(H20)	691,037	廃止(22年度) 激変緩和を図る観点から、20年度に20%、21年度 に40%経費を縮減し、21年度末をもって廃止。 20年度、21年度については、申請施設数・申請額 トータルを見極めながら、予算の範囲内で事業執 行。
社会福祉施 設機能強化 推進事業費	150,910	85,061	92,261	府の財政状況に 鑑み廃止 H20は激変緩和 の観点から50% 縮減	87,570	縮減(20年度) 府の関与を見極め、経費縮減のうえ実施。 ○研修事業:20年度は予算の範囲内で事業執行。 21年度以降についてのあり方検討を行う。 ○第三者評価・自主監査・苦情解決:20年度は申 請額の50%で執行予定、21年度廃止。 ○先進的取組パイロット:20、21年度は既存採択 分の補助のみ継続、22年度廃止。 ○老朽化防止対策:20年度廃止

※ 社会福祉施設機能強化推進事業

- (1) 職員資質向上費(研修関係) ①委託研修・補助研修 ②長期研修支援事業
(2) 第三者評価受審支援事業 (3) 自主監査受審支援事業 (4) 苦情解決体制整備支援事業
(5) 先進的取組パイロット事業 (6) 施設老朽化防止対策事業

「すずめ」も同じ鳥。人がどちらかに善悪をつけて退治するわけにもいかず、最後は静観するしか仕方のない状態でした。しかし、最初は劣勢だったつばめの親が、子どもを守ろうと必死に応戦し、ついにすずめを追い払ったのです。その勇敢な姿に感動させられる光景でした。(編集委員 M・K)

を、また飛び立って行きます。ところが、今年には「災難」がつばめの親子に降りかかりました。一羽のすずめが、つばめの子たちへ猛然と攻撃し始めたのです。何度か執拗につづいてくるので、巣から落ちてしまったり、かろうじて足だけが巣にひっかかっているものなど何羽も被害に遭っていました。見かねた先生たちが巣に戻したり、弱っているのを保護したりしながら、すずめを追い払おうと試みていました。ですが、「つばめ」も「すずめ」も同じ鳥。人がどちらかに善悪をつけて退治するわけにもいかず、最後は静観するしか仕方のない状態でした。しかし、最初は劣勢だったつばめの親が、子どもを守ろうと必死に応戦し、ついにすずめを追い払ったのです。その勇敢な姿に感動させられる光景でした。(編集委員 M・K)



5月頃に
つばめが園
へやってき
ました。毎
年園舎の軒
先へ巣作り



要援護者への“寄り添い”を大切に 地域貢献ネットワークの一員の自覚促す

—平成20年度 第1回地域貢献事業人材養成研修—



小野氏

①「地域福祉入門」Ⅱ大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科・小野達也准教授

地域福祉の歴史と現状を解説、最後に「保育というフィールドを足場に

保育園の地域貢献事業は地域の中での育児相談に加え、様々な悩みや問題を抱えた人々たちへの相談活動・問題の早期発見・早期相談による予防・適切な関係機関への「つなぎ」などの活動の担い手となる人材育成が目的で、今回は育児相談員の資格を持つ67名が受講。研修内容の概要と講師は次の通り。

平成20年度第1回保育部会「地域貢献事業人材養成研修」が7月31日、たかつガーデンで開かれ、地域貢献事業推進委員会委員長の熊井茂治氏の開会挨拶に続き、四つのテーマについて研修が行われました。



奥村氏

しながら、みんながいきいきできる社会を創ることが地域貢献事業である」と強調されました。

②「制度・サービス・社会資源へのつながり」Ⅱ大阪社会医療センター付属病院医療ソーシャルワーカー、奥村晴彦氏

社会保障の体系や生活保護制度について説明。地域貢献事業の担い手であるコミュニケーションソーシャルワーカーは「クライアントの生きる力を受け止め、生活に気づき、協働作業として笑顔を引き出す役目」と締めくくられました。

③「社会福祉サービスの相談機関、福祉事務所の相談業務から学ぶ」Ⅱ元堺市北保健総合センター所長、佐伯利之氏

相談事例を紹介しながら「相談には雰囲気作り



佐伯氏

に配慮し相手の立場に立ち傾聴する。この最初の過程を大事にすることが安心感を与え、同時に主訴をフォーカス化でき問題解決に繋がる」と指摘。問題解決の様々な選択肢と「つなぎ」の具体的な流れを学びました。

④「老人福祉施設における社会貢献事業」Ⅱ大阪府社会福祉協議会社会貢献推進室、真田政稔室長

老人福祉施設の社会貢献事業は、制度の狭間に埋もれ既存のセーフティネットでは支えきれない地域の「要援護者」に対し、見守りや相談、機関へのつなぎ、必要に応じた経済援助を行うことで、生活問題の解決や自立支援を図るのが目的。相談件数も16年度当初と比べ19年度は約4倍。その果たす役割の重要性を痛感させられました。

「貢献」について学び、この事業の必要性・重要性を実感。地域福祉に携わるネットワークの一員という自覚が芽生え、地域に密着した保育園の新たな役割が確認できました。地域貢献事業に関わる者として、要援護者への『寄り添い』を大事にしていきたいと思いました。(編集委員K・T)

保育所保育指針 勉強会報告

保育部会は今年度事業に「制度改正に伴う勉強会」を取り上げています

が、5月から調査研究委員会、保育士会合同の「保育所保育指針勉強会」がスタートしました。同勉強会の内容と進捗状況は次の通り。

と主任保育士など対象の研修会を企画。

新指針の施行は平成21年4月です。限られた時間の中で指針の内容が理解されるようお手伝いしたいと熱心に取り組んでいます。

(私部保育園H・H)

【勉強会メンバー】(順不同・敬称略)

①「新保育所保育指針の内容の確認」Ⅱ指針の告示化に伴い義務化されたものと努力義務との内容を整理。

②「改定の内容に則した保育記録用紙等の見直し」Ⅱ0〜5・6歳児までの保育記録用紙、児童原簿、連絡カードの検討・作成(ホームページへの掲載を予定)。

③「新指針の研修会企画」の取り組みⅡ10月末〜11月中旬、施設長対象

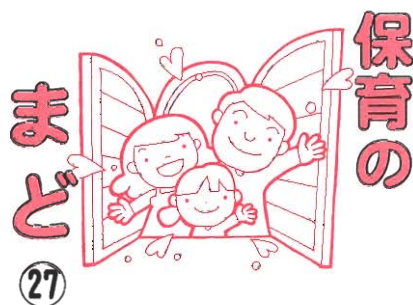
(保育士会) 古川園・大西潤子、ちとせ保育園・中尾恵子、錦保育園・田中由子、おりづる保育園・木田裕子、高屋保育園・山本佳世、堺めぐみ保育園・沢西佳世、双葉児童園・赤井理恵。



調理実習体験

食育はまず、毎日の食事から始まりますので、料理は①野菜を多く使用した和食中心の献立②安全な食材料、天然だしを使用③加工、インスタント

「やさしい」とつよいからだ―当園の保育目標です。食育・体育・美育を三本柱に、感性豊かな、心も体も強い人になる基礎づくりをめざしています。



保育の

「白鷺保育所」―堺市

シリーズ 食育

年間計画に従い正しいマナー・清潔感・楽しい食事―を演出
年齢別に野菜カード遊びや調理体験

テーマに従って年齢別にねらいと指導・留意点を考えていきます。活動

年間テーマは
【Ⅰ期】正しいマナー
【Ⅱ期】清潔感
【Ⅲ期】なんでも食べる
【Ⅳ期】楽しい食事の演出

実践にあたっては、保育士の意見をもとに作成した食育年間計画に従います。

ト食品は極力使わない④薄味励行で材料本来の味を子どもが覚えるように心がける―などの点を重視しています。

楽しく食事をするなかで、マナー・食材名や色彩・旬(季節感)などを教え、食べることの基本姿勢を養っていきたいと思っています。

【1・2才】ミニトマトの水やり・じゃがいも、さつまいも堀り・箸の練習・野菜の絵色塗り・野菜カードあそび・食育絵本を見ることなど。

内容としては、



ポスター。1か月ごとに作成

【3才以上】

三色栄養板への絵札かけ・野菜の栽培と収穫・絵を描く・当番活動・食物クイズ遊び・調理実習の見学と体験・野菜カードづくり など。

昨年度は食育教材として園児、保護者、職員向けに「ポスター」づくりをし、食への関心が高まるよう園内に貼りしました。今年度は園児用に「野菜カード」を作成しています。

また、保護者に子どもたちの食事を知ってもらうた

老朽全面改築を終えて

地域の子育て支援拠点として新たな歩み始まる

大東わかば保育園

平成18年3月に耐震診断を受けたところ補強工事「要」との診断が出ました。保育を行いながらの工事は困難なため全面改築に方向転換、市・府との協議を経て老朽改築のため交付金を申請しました。

他の場所に仮園舎を建てなければなりませんでしたが、仮園舎の建築はもちろん、保育には多くの困難があり保護者や職員にはご苦労をかけたいたが、自然に恵まれていたため子どもたちにはよい体験になりました。新園舎の設計にあたっては次の3点に留意しました。



昭和51年5月開園。2代目の園舎

①毎日園舎で過ごすことになる子どもたちの生活を重視する。
②開園以来、追求実現してきた積極的で柔軟な保育を展開する職員の立場になって考える。
③31年にわたり当園を支

め、毎日の食事の写真を掲示、保護者参加の誕生会や試食会も実施しています。

一般に、何か特別なことをするのが食育と考えられがちですが、日々の食事を大切にするのか、食育が始まるのではないのでしょうか。理解を

深める手段としての活動はもちろん必要ですが、それだけに終始しないよう気をつけなければと考えます。

家庭でも愛情のこもった料理を作る、その姿を子どもたちに見せる、そして一緒に食事するということが最も大切ではな

いかと思っています。

(白鷺保育所 T・M)

当園2代目の園舎が完成し、地域での「保育」「次世代育成支援」拠点施設としての歩みが新たに始まりました。

(大東わかば保育園 R・Y)



ブロックだより

北大阪

新たな「公」担う

社福法人への脱皮を

―佐藤准教授が講演―

北大阪ブロックの第5回子育て支援研修会が7月25日、地域貢献事業推進委員会の熊井茂治委員長(保育部会副部長)、

関西福祉科学大学の佐藤貞良准教授(前府社協事務局長)を講師に招き、交野市ゆうゆうセンターで開催されました。

熊井委員長から「保育における地域貢献事業」の概要説明が行われたあと、佐藤准教授が「なぜ、今、社会貢献なのか？」をテーマに講演。

佐藤氏は社会福祉法人

保育園をたずねて

365

四条畷市

暇たんぽぽ保育園

増築の屋上で

プール遊び満喫

暇たんぽぽ保育園は地域の方々の願いで設立された保育園です。

2001年4月に乳児保育園として開園。その後、就学前までの保育を実施してほしいとの要望があり、多くの人の協力で今年4月、定員60人の保育所として新たなスタートをきりました。

その際の増築では広いホールや幼児室、組立式



景色のいい屋上で

プールが設営できる屋上遊技場を確保するため、設計士さんと職員が話し

合って設計しました。今年のプール遊びは新しい屋上で毎日楽しんでいきます。飯盛山の麓にあるので屋上は開放的、子どもたちの心も解放され、のびのびと水に飛び込んだりしています。

子育て支援も積極的に行い、プール開放では地域の子どもたちがたくさん参加しプール遊びを満喫。参加されるお母さんたちからは「景色に癒される」と大好評です。

(編集委員 J・H)

(以下社福法人)の歴史的背景や、その地位が揺らぎつつある点を指摘したうえ、特に介護保険制度導入後、社福法人以外の法人の福祉サービスへの進出が顕著(公立民営化も含め)で、社福法人の「税制上の優遇措置」などについて解説、保育園の存在に関わる重大な問題と再認識させられました。

佐藤氏はさらに「これから新たな『公』を担う社福法人『特別な法人』

への脱皮・再生が必要。保育部会の地域貢献事業を推進し、老人施設部会の社会貢献事業との連携を積極的に行うことが必要」と強調されました。

(編集委員 J・F)

泉州

子どもの意欲を引き出す

遊びの環境づくりを

―保育士研修―

泉州保育士会主催の保育士研修が8月2日(土)、講師にキッズいわき・岩城敏之氏を招き、貝塚福祉センターで開催されました。

岩城氏は「子どもが集まって遊ぶ環境づくりのポイント」をテーマに講義。「子育て環境が変わる中で子ども、保護者とうまく関わるには、家庭保育で欠けている部分を育て、子どもに合った保育を行うことが大事」と指摘したうえ、遊びの環境づくりについて、

「確実にまねでできるような発達段階に応じた遊びの見本を見せ、それができたら褒めてあげることが

あ 14名の編集委員からなる「保育おおさか」は毎月発行される業界の情報誌とも言えますが、編集委員会では、保育部会会員のより多くの皆様に読んでいただくために、正確で、読みやすい、タイムリーな記事をと工夫されています。

加わっていただいております。記事、文章の校正、添削、効果のある見出しのつけ方など、新聞編集の長い経験から様々な指導・助言をされ、より充実した記事づくりに一役を担っていただいております。

あの人

委員には昨年度から元産経新聞大阪本社編集局編集委員兼論説委員の吉田伊佐夫さんに

部、丸橋有さんの頑張り、事前の記事内容の調整、事後の執筆依頼校正を経て、発行の運びとなります。今月号はいかがでしたか。(I・M)

大切。子どもが成長を実感すること、意欲がわき集中し取り組むことができる」と強調されました。子どもたちが自分に与

えられた能力に気づき、その能力で自分と周りの人を幸せにできること、嫌なこと、不安があっても「乗り越えられる」と思えることがポイント。その点を常に考え保育をしていかなければいけないと実感しました。

(しいの実保育園 R・A)

泉州民間保育士会研修会



講師の岩城氏

発行所
大阪市中央区中寺1丁目1-54
大阪府社会福祉協議会
保育部 会
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762-9001
発行人 男
永野 治
編集人 勲
宮 武